

[24_01]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1470170>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 24 (1), 1991-01-25. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

計算機一言アドバイス

システム管理掛 平野 広幸

・データセットの管理について（その４）

今回は、「データセットの効率的な利用法」について説明します。

ブロックサイズをできるだけ大きくすればデータセットのスペース効率が良くなることは、前号までに何度も説明してきました。大きなブロックサイズの利用においては、もう一つ大きな利点があります。

それは、EXCP（ファイルアクセス）回数が軽減することです。データの読み出し、あるいは、書き込みのハードウェアのアクセス単位はブロックで行われますので、データ数が多い場合には、ブロックサイズが大きいほどEXCP回数が減ります。EXCP回数が減れば、それだけ実行時間が数倍速くなり、負担金も安くなります。しかしながら、ブロックサイズにも上限があり、スペース効率のことも考慮すると、ブロックサイズの大きさは、レコード長やレコード編成によりますが、23400バイト前後が妥当でしょう。

EDITコマンドやPFDのEDITオプションで新規に作成すると、ブロックサイズは23440バイトになります。この値では、1トラック当り586レコード格納されます。しかし、スペース量が多いデータセットを確保する場合には、次のようにコマンドを入力して作成します。例では、下線部が利用者入力部を示します。

作成例)

80バイト固定長レコードの順データセットを50トラック確保する。

READY

ATTR DCB LR(80) RECFM(F,B) BLKSIZE(23440) DSORG(PS)

READY

ALLOC DA(データセット名) NEW CA SP(50,5) T US(DCB)

PFDを使って作成する場合は次のように行います。

READY

PFD 3.2

```

-----< DATASETユーティリティ -----
オプション ==> A ← 新規割当オプション

A - 新データセットを割り当てる。      C - データセットをカタログする。
D - データセットを削除する。          空白 - データセットの属性を表示する。
R - データセット名を変更する

PFDライブラリデータセット:
プロジェクト名 ==> A79999A      ← 登録番号
ライブラリ名   ==> TEST        ← データセット名
タイプ名       ==> DATA       ← 内容識別子

PFDライブラリ以外のデータセット:
データセット名 ==>              (カタログされていない場合)
ボリューム通番 ==>              (パスワード保護されている場合)
パスワード ==>
    
```

オプションおよび作成するデータセット名を指定後実行キーを押す。

```

-----< 新データセット割当てメニュー -----
コマンド ==>

+-----+
!   データセット名: A79999A. TEST. DATA   !
+-----+
! ボリューム通し番号    ==>      (空白時には省略値が採られます) !
! スペース単位         ==> TRKS (BLKS/TRKS/CYLSを指定して下さい) !
! 初期量               ==> 50  (上記のスペース単位が採られます) !
! 増分量               ==> 5   (上記のスペース単位が採られます) !
! ディレクトリブロック数 ==> 0   (0を指定すると順編成になります) !
! レコード形式         ==> FB   !
! レコード長           ==> 80   !
! ブロック長           ==> 23440 !
+-----+

```

大きさと属性を指定し、ボリューム通し番号を空白にして実行キーを押す。

データをデータセットに格納した後は、未使用スペースを開放するため、次のようにRELEASEコマンドを入力します。

RELEASE データセット名